



この写真は大気社の海外地点がある中国の世界遺産、
万里の長城です。

 **株式会社 大気社**

2019年3月期(2018年度)

第2四半期決算説明会資料

2018年11月19日

Copyright 2018 Taikisha Ltd., All Rights Reserved.

本日の説明内容

- | | |
|----------------------------------|--------------------------|
| 1. ご挨拶 | 代表取締役社長執行役員
芝 利昭 |
| 2. 2019年3月期（2018年度）
第2四半期決算説明 | 取締役常務執行役員 管理本部長
中川 正徳 |
| 3. 質疑応答 | |

1. 上期の事業環境と業績
2. 通期業績予想
3. 今後の重点実施事項

社長の芝です。
上期の事業環境と実績、通期業績見通し、今期配当予想についてお伝えしたのち、今後注力していく取り組みについてご説明したいと思います。

1 上期の事業環境と業績

《環境システム事業》

(ビル空調事業)

- ▶ 首都圏におけるオフィスビルの建設需要が高い状況が続いた。

(産業空調事業)

- ▶ 国内はスマートフォンや自動車電装品向け電子部品の製造メーカーによる活発な投資が継続。
- ▶ 海外は現地における人件費の上昇や、為替の円安傾向などの要因により、日系顧客の投資が少ない状況が続いた。

《塗装システム事業》

- ▶ 中国、インド、アメリカでの投資が多かったが、米中貿易摩擦やNAFTAの再交渉などの影響による先行き不透明感が続いている。

国内の事業環境は、ビル空調分野では、前期に引き続き首都圏におけるオフィスビルの建設需要が高い状況が続きました。また、産業空調の分野におきましても、スマートフォンや自動車電装品向け電子部品メーカーによる投資が活発に行われました。

しかしながら、海外市場においては、現地における人件費の上昇や、為替の円安傾向などの要因により、日系顧客の投資が少ない状況が続きました。

一方、塗装システム事業に関しましては、中国、インド、アメリカなどで積極的な投資が行われましたが、米中貿易摩擦やNAFTAの再交渉などの影響による先行き不透明感が続いております。

1 上期の事業環境と業績

上期の単体業績

単位：億円

	期初予想	2018.9 実績	差異
受注工事高	530	805	275
完成工事高	550	573	23
経常利益	42	57	15
(同率)	7.6%	10.0%	2.4%
四半期純利益	29	11	-17
(同率)	5.3%	2.0%	-3.3%

受注：産業空調が寄与し上振れ。

売上：好調な受注に伴い上振れ。

経常利益：採算性重視の受注方針、原価低減、ロスコストの削減が寄与し上振れ。

純利益：Geico社において米国の自動車塗装設備に関する大型プロジェクトで採算が悪化したこと等に伴い、同社株式の減損処理として、関係会社株式評価損を特別損失に計上したことにより下振れ。

こうした状況にあって、単体の受注工事高は805億円と、期初予想に対して275億円上回ることができました。これは、産業空調分野が好調であったことによります。好調な受注を受けて、完成工事高も期初予想を上回っております。

経常利益も期初予想を上回る結果となりました。これは、かねてより進めてきました採算性重視の受注方針、原価低減、ロスコストの削減などの寄与が大きいと考えております。

ただし、純利益については、当社アライアンス先のイタリアGeico社において、米国での自動車塗装設備に関する大型プロジェクトで採算が悪化したこと等に伴い、同社株式の減損処理として、関係会社株式評価損を特別損失に計上したことにより、期初予想を下回る結果となりました。

1 上期の事業環境と業績

上期の連結業績

単位：億円

	期初予想	2018.9 実績	差異
受注工事高	930	1,185	255
完成工事高	960	988	28
経常利益	46	38	-7
(同率)	4.8%	3.9%	-0.9%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	28	9	-18
(同率)	2.9%	0.9%	-2.0%

受注：塗装システム事業は未達となったが、環境システム事業が補い上振れ。

売上：環境システム事業が寄与し上振れ。

経常利益：環境システム事業は好調な国内業績により期初予想を上回ったが、
塗装事業においてGeico社の案件で採算が悪化し、全社においては下振れ。

純利益：Geico社に係るのれんの未償却残高の一時償却として、のれん償却額を
特別損失に計上したことにより下振れ。

一方、連結の受注工事高は、塗装システム事業での未達分を環境システム事業が補う形で、期初予想に対し255億円上回る結果となりました。

完成工事高も環境システム事業が寄与し、期初予想を28億円上回りました。

経常利益につきましては、環境システム事業は好調な国内業績により期初予想を上回ったものの、塗装システム事業は先ほどお伝えしたとおり、Geico社の米国の大型案件において採算が悪化したため、結果として、全社においては未達となりました。

なお、純利益については、先程申し上げたイタリアGeico社に係わるのれんの未償却残高の一時償却として、のれん償却額を特別損失計上したことにより期初予想を下回る結果となりました。

2 通期業績予想

通期の連結業績予想

単位：億円

	上期実績	下期予想	通期 (新予想)	通期 (期初予想)	差異
受注工事高	1,185	964	2,150	2,150	0
完成工事高	988	1,211	2,200	2,200	0
経常利益	38	91	130	130	0
(同率)	3.9%	7.5%	5.9%	5.9%	0.0%
親会社株主に帰属する 当期純利益	9	52	62	75	-13
(同率)	0.9%	4.4%	2.8%	3.4%	-0.6%

- 経常利益は塗装システム事業における上期の採算悪化を、環境システム事業の好調さと、塗装システム事業での下期における挽回でまかない、期初予想達成の見通し。
- 親会社株主に帰属する当期純利益は、Geico社に係る特別損失の計上により期初予想を大きく下回る見通し。
- 年間配当は、期初公表どおり1株77円で実施予定。

続いて、通期業績予想についてです。

受注工事高および完成工事高については後ほど、管理本部長の中川より、事業分野ごとの内訳を踏まえてご説明させていただきます。私からは利益について触れさせていただきます。

まず、経常利益は塗装システム事業の上期の採算悪化を、環境システム事業の好調さと、塗装システム事業での下期における挽回でまかない、期初予想達成となる見通しです。

一方、純利益につきましては、Geico社に係わる特別損失計上により、期初予想を大きく下回る見込みです。

このように純利益につきましては、期初に掲げた業績予想を下方修正する形となりましたが、当社といたしましては、引き続き期初予想との差を可能な限り埋めるべく、最後まで粘り強く、利益拡大のための取り組みを着実に実行してまいります。

なお、今期の年間配当は、期初公表の配当金額から変更せず、1株につき77円で実施する予定です。

3 重点実施事項 環境システム事業

国内事業：顧客維持と新規顧客開拓

(技術力・営業力の強化)

- ・更なる施工品質の向上や原価低減活動の継続により、顧客維持と新規顧客開拓に取り組む。

海外事業：投資地域の変化への対応

(事業環境の変化に合わせた拠点の経営・事業体制の改善)

- ・顧客の投資動向に合わせ、各地域での安全・品質・納期・メンテナンスサービスを国内並みに対応できる体制を構築する。

新規・周辺事業の規模拡大

(中長期的な成長に向けた取り組み)

- ・植物工場ビジネス、環境ビジネスへの取り組み強化。

それでは、今後の重点実施事項についてご説明いたします。

環境システム事業については、今後も、新耐震基準が導入された1981年以前に建てられた築37年以上のビルに対する改築・改修需要や、電子部品の需要拡大に伴うメーカーの設備投資の拡大などが期待されます。

このように、当面は好調な市場環境が続くと思われませんが、その状況に甘んずることなく更なる施工品質の向上や原価低減活動の継続により、顧客維持と新規顧客開拓に取り組んでまいります。

海外事業に関しては、中国景気の動向、その他東南アジア地域における人件費の上昇や、現地通貨安などによる影響により、日系顧客の投資地域が変動していくことが想定されます。当社は現在東アジアやASEAN 10ヶ国に拠点を配置していますが、今後は顧客の投資動向に合わせ、各地域で安全・品質・納期・メンテナンスサービスを国内並みに対応できる体制を構築すべく、事業環境の変化に合わせた、拠点の経営・事業体制の改善を進めていきます。

また、中長期的な成長に向けては、新規事業や周辺事業の拡大を目指し、植物工場ビジネス、超高性能環境試験装置、VOCガス除去装置を始めとする環境ビジネスの取り組みを引き続き強化していきます。

3 重点実施事項 塗装システム事業

プロジェクトにおけるリスク管理

(採算悪化事象の発生防止)

- ・改めてプロジェクトにおけるあらゆるリスクの洗い出しとその防止に取り組む。

既存事業の技術力の強化

(他社との差別化)

- ・自動車塗装設備におけるより高度な顧客ニーズへの対応。

新規・周辺事業の規模拡大

(中長期的な成長に向けた取り組み)

- ・航空機、鉄道車両などの塗装設備の自動化システムの拡充による大気社ブランドの確立。
- ・テクニカルセンター（座間）の設立。

一方、塗装システム事業においては、第一に、前年度に続き採算悪化事象が発生したことを踏まえ、原点に立ち返り、改めてプロジェクトにおけるあらゆるリスクの洗い出しとその防止に取り組んでいます。

第二は技術力の強化です。冒頭で触れさせていただきましたとおり、自動車市場における先行き不透明感が続いております。そのような環境下にあっても、他社との技術の差別化を図っていくために、自動車塗装設備において、より高度な顧客ニーズへの対応を目指します。例えば、塗装工程においては、現在のところ、塗料の塗着効率をいかに上げていけるかが最大のネック技術となっています。この効率が上がれば、高価な塗料の無駄が省けると同時に、塗着しなかった塗料の回収・処理に要する多大なエネルギーロス等の環境負荷低減が実現しますので、まさしくお客様と地球環境にとっての課題解決技術と言ってよいと思います。

さらに、中長期的な事業拡大を見据え、自動車の領域で培ったノウハウを生かして航空機、鉄道車両などの塗装設備の自動化システムを拡充し、大気社ブランドの確立を目指していきたいと考えております。

なお、これらの取り組みを推進するための研究施設として、現在、座間に新たにテクニカルセンターの設立を進めており、今期中に完成する予定です。



2019年3月期（2018年度） 第2四半期決算説明

- ① 2019年3月期第2四半期決算ハイライト
- ② 環境システム事業の業績
- ③ 塗装システム事業の業績
- ④ 主な受注工事・完成工事・繰越工事
- ⑤ 2019年3月期の業績予想
- ⑥ 株主還元

1. 業績数値等は原則、連結ベースです。個別ベースの場合のみ、各ページのタイトルに（個別）と記載しています。
2. 業績数値等は原則、外部顧客に対する取引金額となっており、セグメント別の営業利益・経常利益についてのみ、内部取引高を含む数値となっております。
3. 業績予想数値は、発表日現在において、入手可能な情報に基づき推計した見込みです。経済動向、業界における激しい競争、市場需要、為替レート、税制や諸制度の改正、その他多様なリスクや不確実性を含んでいます。そのため、実際の業績は当社の見込みとは異なる可能性がありますので、ご承知おください。

管理本部長の中川です。

これより、2019年3月期上期決算につきましてご説明いたします。

では、次のページ11ページをご覧ください。

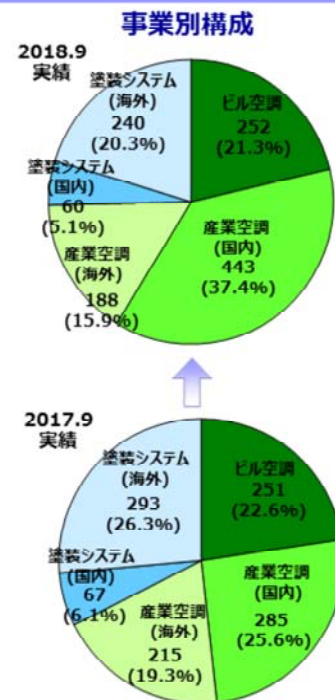
1 2019年3月期第2四半期決算ハイライト

1-①.事業別受注工事高 (前年同期比)

	2017.9	2018.9	増減
受注工事高	1,114	1,185	71
(うち国内)	(605)	(756)	(151)
(うち海外)	(508)	(428)	(-80)
環境システム事業	752	884	132
ビル空調	251	252	0
産業空調	500	632	131
(うち国内)	(285)	(443)	(158)
(うち海外)	(215)	(188)	(-26)
塗装システム事業	361	300	-60
(うち国内)	(67)	(60)	(-7)
(うち海外)	(293)	(240)	(-53)

(環境システム事業)

・産業空調の国内は「電気・電子」分野で受注を伸ばし、好調に推移。



11ページは事業別の受注工事高を前年同期比でまとめています。

全社としましては71億円増加し、1,185億円となりました。

そのうち、環境システム事業では、ビル空調は横ばい、海外産業空調は減少となりましたが、国内産業空調が好調に推移したことにより132億円増加し、884億円となりました。

一方、塗装システム事業は、前期上期は、ベトナムやカナダなどで大型の新工場案件を受注しましたが、当期上期は前期上期のような大型物件投資はなく、加えて予定していた案件の期ズレもあり60億円減少し、300億円となりました。

1 2019年3月期第2四半期決算ハイライト

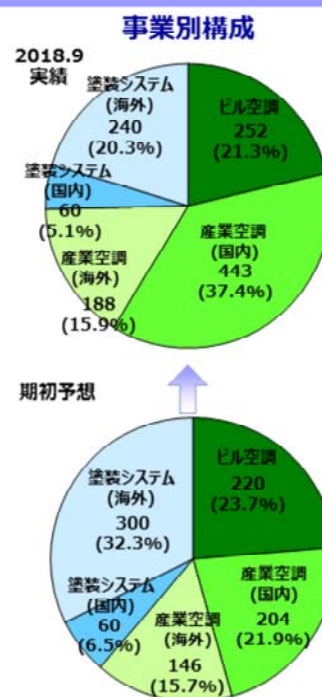
1-②. 事業別受注工事高 (予想比)

単位：億円

	期初予想	2018.9実績	差異
受注工事高	930	1,185	255
(うち国内)	(484)	(756)	(272)
(うち海外)	(446)	(428)	(-17)
環境システム事業	570	884	314
ビル空調	220	252	32
産業空調	350	632	282
(うち国内)	(204)	(443)	(239)
(うち海外)	(146)	(188)	(42)
塗装システム事業	360	300	-59
(うち国内)	(60)	(60)	0
(うち海外)	(300)	(240)	(-59)

(環境システム事業)

・産業空調の国内が期初予想を大きく上振れ。



12ページは同じく受注工事高について、期初予想比で示しております。

全社では、予想を255億円上回りました。

そのうち、環境システム事業は予想を314億円上回りました。なお、国内産業空調につきましては、予想が239億円と大きく上振れました。この要因には下期に受注を見込んでいた大型案件が上期において前倒しで受注できたことも影響しています。

一方、塗装システム事業は、受注計画案件の期ズレなどにより、予想を59億円下回る結果となりました。

1 2019年3月期第2四半期決算ハイライト

2-①. 事業別完成工事高（前年同期比）

単位：億円

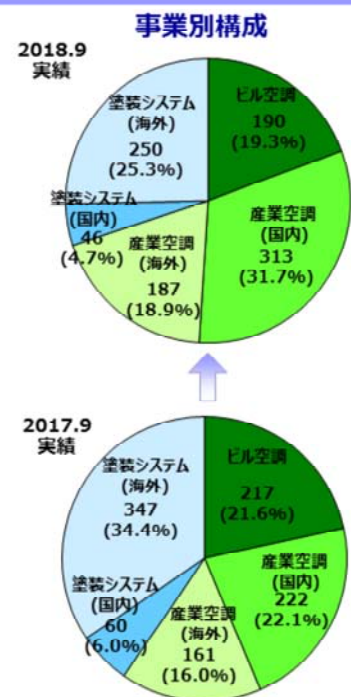
	2017.9	2018.9	増減
完成工事高	1,010	988	-21
（うち国内）	(501)	(550)	(49)
（うち海外）	(509)	(437)	(-71)
環境システム事業	602	691	88
ビル空調	217	190	-27
産業空調	384	500	115
（うち国内）	(222)	(313)	(90)
（うち海外）	(161)	(187)	(25)
塗装システム事業	408	297	-110
（うち国内）	(60)	(46)	(-13)
（うち海外）	(347)	(250)	(-96)

（環境システム事業）

・国内産業空調は期初の繰越工事高の増加や好調な受注の影響により、増加。

（塗装システム事業）

・前年同期は米国の自動車塗装の大型案件2件が売上に大きく寄与したことによる反動減。



13ページでは事業別完成工事高を前年同期比で示しております。

全社では21億円減少し、988億円となりました。

そのうち、国内産業空調は期初の繰越工事高の増加や好調な受注の影響により完成工事高も、90億円増加し313億円となりました。

一方、塗装システム事業は110億円減少し297億円となりましたが、これは前年同期に米国の自動車塗装の大型案件2件が売上に大きく寄与したことによる反動減です。

1 2019年3月期第2四半期決算ハイライト

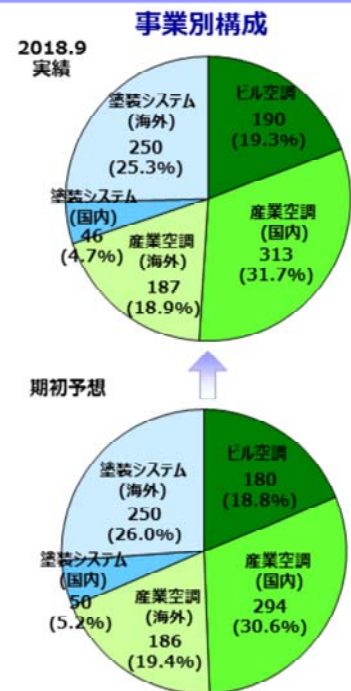
2-②.事業別完成工事高 (予想比)

単位：億円

	期初予想	2018.9実績	差異
完成工事高	960	988	28
(うち国内)	(524)	(550)	(26)
(うち海外)	(436)	(437)	(0)
環境システム事業	660	691	31
ビル空調	180	190	10
産業空調	480	500	20
(うち国内)	(294)	(313)	(19)
(うち海外)	(186)	(187)	(1)
塗装システム事業	300	297	-2
(うち国内)	(50)	(46)	(-3)
(うち海外)	(250)	(250)	0

(環境システム事業)

・産業空調の国内は、受注が期初予想を上回ったことも影響し、上振れ。



14ページは同じく完成工事高を予想比でまとめています。

全社では、予想を28億円上回りました。

そのうち、国内産業空調は、受注が予想を上回ったことも影響し、完成工事高についても予想を19億円上回りました。

1 2019年3月期第2四半期決算ハイライト

3-①. 事業別利益 (前年同期比)

単位：億円

	2017.9	2018.9	増減
営業利益	31	33	2
(同率)	3.2%	3.4%	0.3%
環境システム事業	46	62	16
(同率)	7.7%	9.1%	1.4%
塗装システム事業	-13	-27	-13
(同率)	-3.4%	-9.3%	-5.9%
経常利益	35	38	3
(同率)	3.5%	3.9%	0.4%
環境システム事業	48	65	16
(同率)	8.0%	9.4%	1.4%
塗装システム事業	-14	-28	-13
(同率)	-3.6%	-9.5%	-5.9%

(塗装システム事業)
・前年同期は米国の子会社のプロジェクトで採算が悪化。そして、今期上期はGeico社の米国におけるプロジェクトで採算が悪化。

15ページは事業別利益を前年同期比でまとめています。
経常利益は全社ベースでは3億円の増加となり、38億円となりました。

そのうち、環境システム事業は、完成工事高の増加に加え、採算性重視の受注活動やコストダウンに取り組んでまいりました結果、経常利益は16億円増加し、65億円となりました。

一方、塗装システム事業は、前年同期は米国子会社のプロジェクトで採算が悪化しましたが、今期上期はGeico社の米国におけるプロジェクトで採算が悪化した結果、経常損失は28億円となりました。

1 2019年3月期第2四半期決算ハイライト

3-②. 事業別利益 (予想比)

単位：億円

	期初予想	2018.9 実績	差異
営業利益	41	33	-7
(同率)	4.3%	3.4%	-0.8%
環境システム事業	41	62	21
(同率)	6.2%	9.1%	2.9%
塗装システム事業	2	-27	-29
(同率)	0.7%	-9.3%	-10.0%
経常利益	46	38	-7
(同率)	4.8%	3.9%	-0.9%
環境システム事業	43	65	22
(同率)	6.5%	9.4%	2.9%
塗装システム事業	3	-28	-31
(同率)	1.0%	-9.5%	-10.5%

(経常利益)

・経常利益は塗装システム事業の損失を、好調な環境システム事業で補いきれず、下振れ。

16ページでは同じく利益について予想比でまとめています。

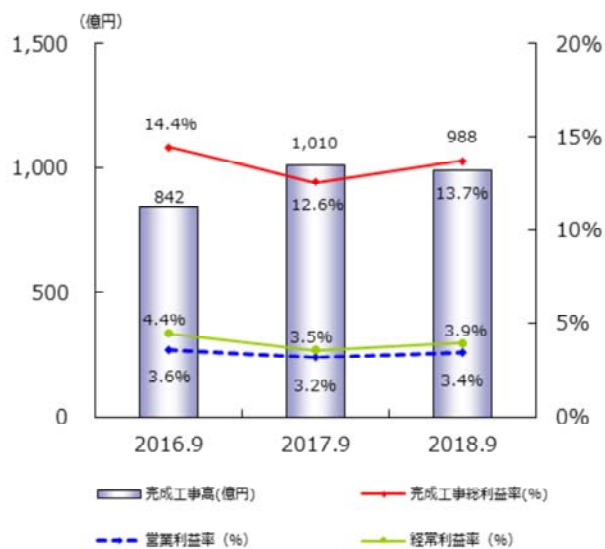
経常利益は塗装システム事業の損失を、好調な環境システム事業で補いきれず、予想を7億円下回る結果となりました。

1 2019年3月期第2四半期決算ハイライト

4. 損益計算書

単位：億円

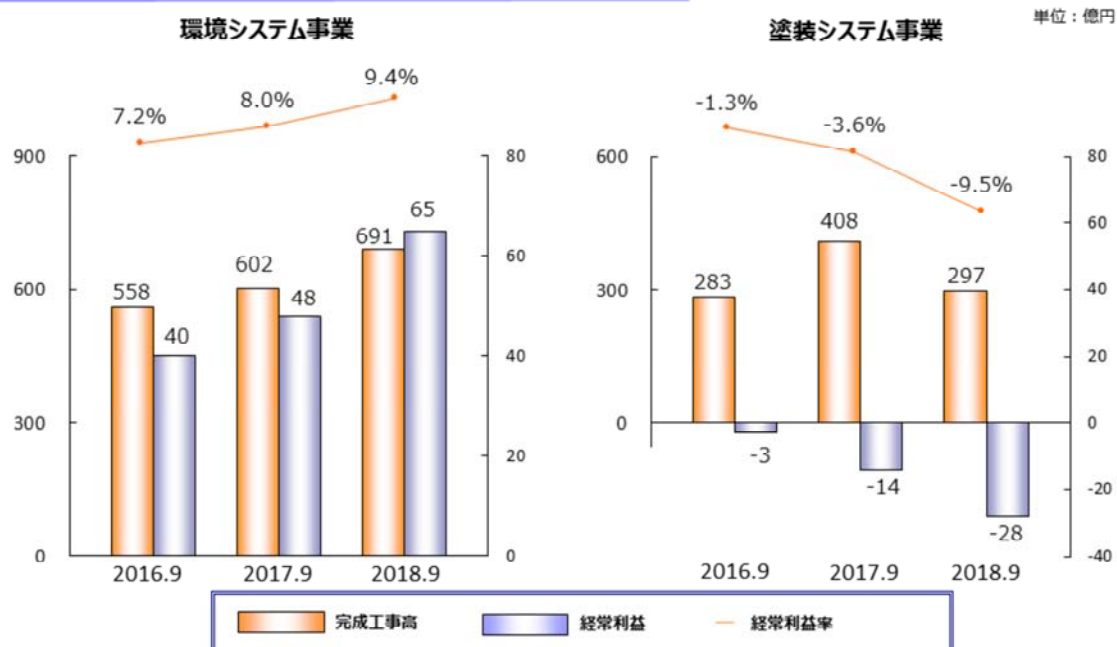
	2016.9	2017.9	2018.9
完成工事高	842	1,010	988
完成工事総利益	121	126	135
(同率)	14.4%	12.6%	13.7%
販管費	91	94	101
(同率)	10.8%	9.4%	10.3%
営業利益	30	31	33
(同率)	3.6%	3.2%	3.4%
経常利益	37	35	38
(同率)	4.4%	3.5%	3.9%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	26	22	9
(同率)	3.2%	2.3%	0.9%



17ページは、3ヶ年の業績の推移を表しています。ご参照ください。

1 2019年3月期第2四半期決算ハイライト

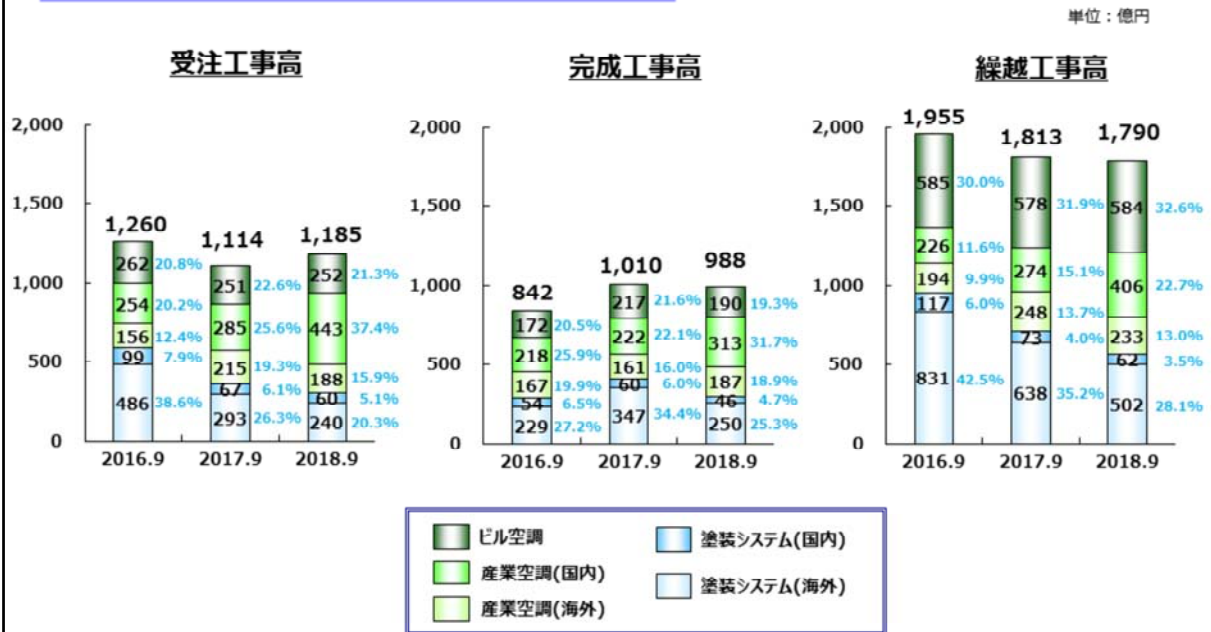
5. 報告セグメントごとの完成工事高及び経常利益



18ページは先ほどご説明しました事業ごとの完成工事高、経常利益額の推移をグラフで示しています。ご参照ください。

1 2019年3月期第2四半期決算ハイライト

6. 受注工事高/完成工事高/繰越工事高

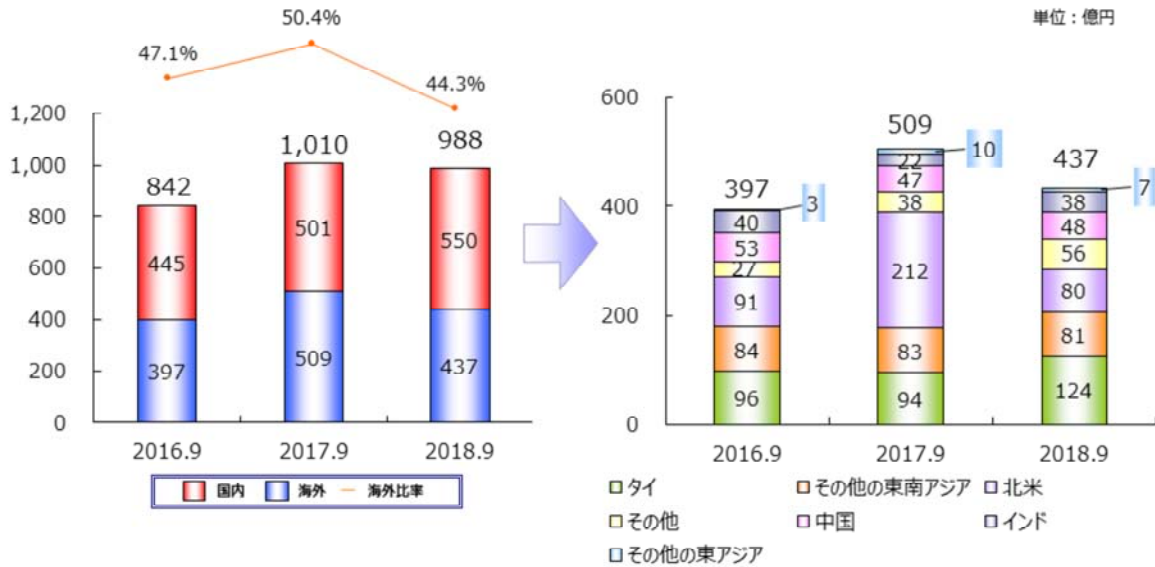


19ページは、受注工事高・完成工事高・繰越工事高の事業分野ごとの内訳と推移を示しております。

そのうち、国内産業空調は好調な受注に伴い、繰越工事高は増加傾向が続く形となりました。

1 2019年3月期第2四半期決算ハイライト

7. 海外完成工事高の推移(施工地別)



備考：当セグメントデータは、外部顧客への売上高のみの数値です。
 ●主な国または地域
 ・東南アジア・・・シンガポール、マレーシア、インドネシア、フィリピン、ベトナム、他
 ・東アジア・・・台湾、韓国
 ・北米・・・アメリカ、カナダ、メキシコ
 ・その他地域・・・ロシア、南米、他

20ページは、海外の完成工事高の推移についてです。

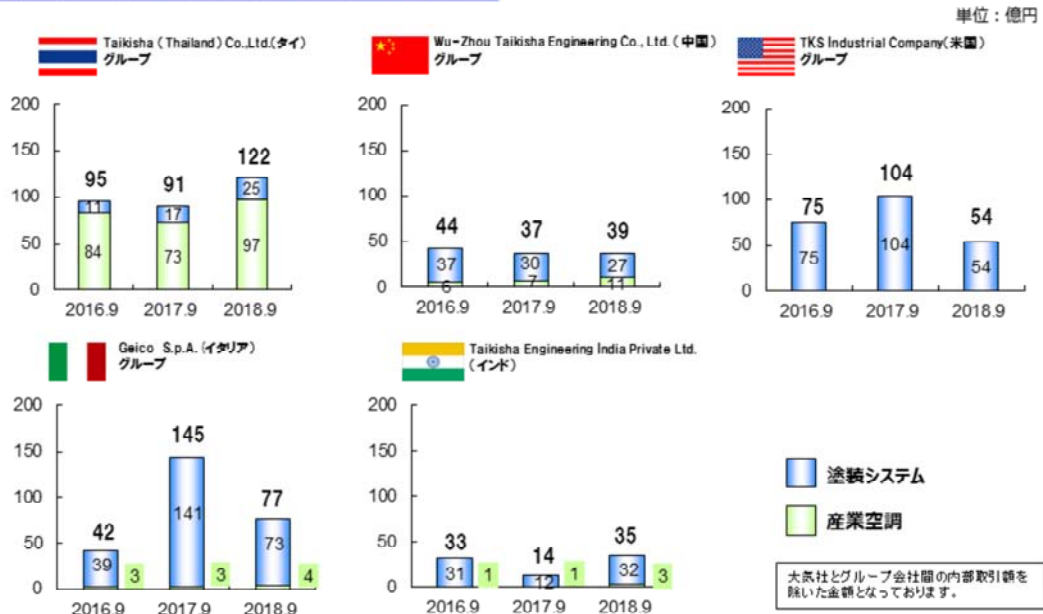
左のグラフは国内海外の内訳と海外比率の推移を示しています。

オレンジ色の折れ線で示す海外比率は前年同期の50.4%より6.1ポイント減少し、44.3%となりました。

これは主として、米国の自動車塗装の減少によるものです。

1 2019年3月期第2四半期決算ハイライト

8. 海外主要5社の完成工事高の推移



21ページは、海外主要5社の完成工事高の推移を示しております。

タイでは前期において大型案件の受注があったことなどにより、今期の完成工事高は増加しました。

繰り返しになりますが、北米の子会社と、Geico社は、前年同期はそれぞれ米国における自動車塗装の大型案件が寄与したため、今期上期は反動減となりました。

1 2019年3月期第2四半期決算ハイライト

9. 貸借対照表

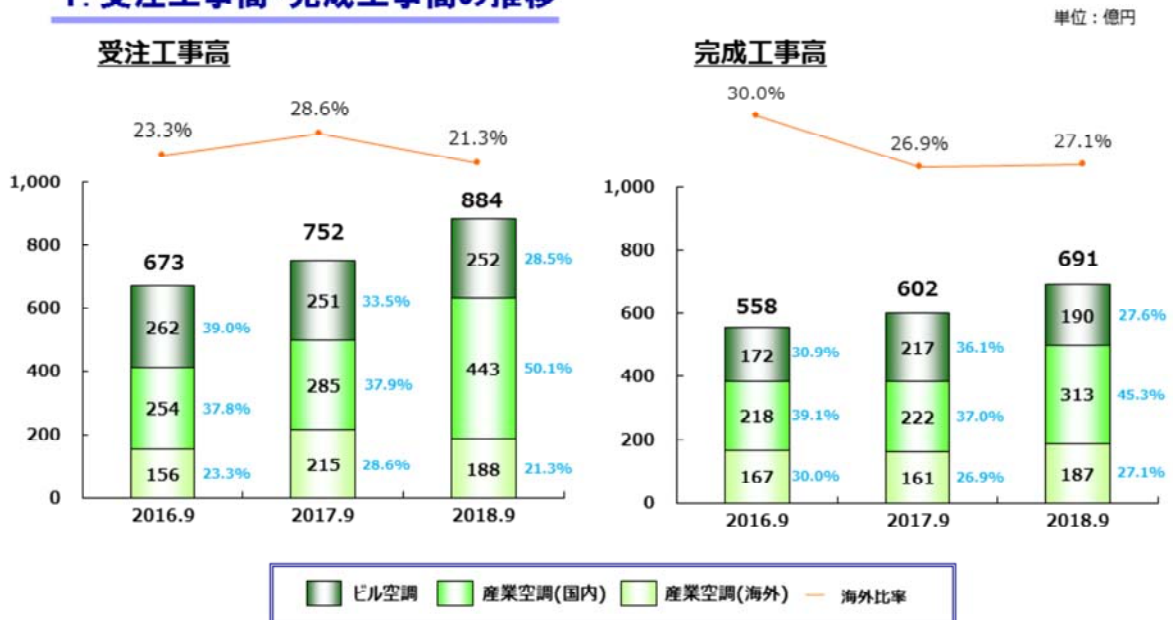
単位：億円

科目	2018.3	2018.9	増減
流動資産	1,590	1,519	-70
現金預金	471	445	-25
受取手形・完成工事未収入金	1,019	901	-117
未成工事支出金及び 材料貯蔵品	24	51	27
その他	79	125	46
貸倒引当金	-5	-5	-0
固定資産	563	575	11
有形固定資産	94	102	8
無形固定資産	61	38	-22
投資有価証券	307	322	14
その他	101	113	11
貸倒引当金	-0	-0	-0
資産合計	2,153	2,095	-58

科目	2018.3	2018.9	増減
流動負債	937	875	-62
支払手形・工事未払金等	605	492	-113
未成工事受入金	118	123	5
工事損失引当金	4	5	1
その他	208	252	44
固定負債	110	127	17
負債合計	1,047	1,003	-44
純資産	1,106	1,092	-14
資本金	64	64	0
資本剰余金・利益剰余金	859	851	-7
自己株式	-24	-24	0
其他有価証券評価差額金	132	143	11
繰延ヘッジ損益	0	0	0
為替換算調整勘定	11	0	-10
退職給付に係わる調整累計額	8	10	2
少数株主持分	54	45	-9
負債純資産合計	2,153	2,095	-58

22ページは連結の貸借対照表となります。ご参照ください。

1. 受注工事高・完成工事高の推移



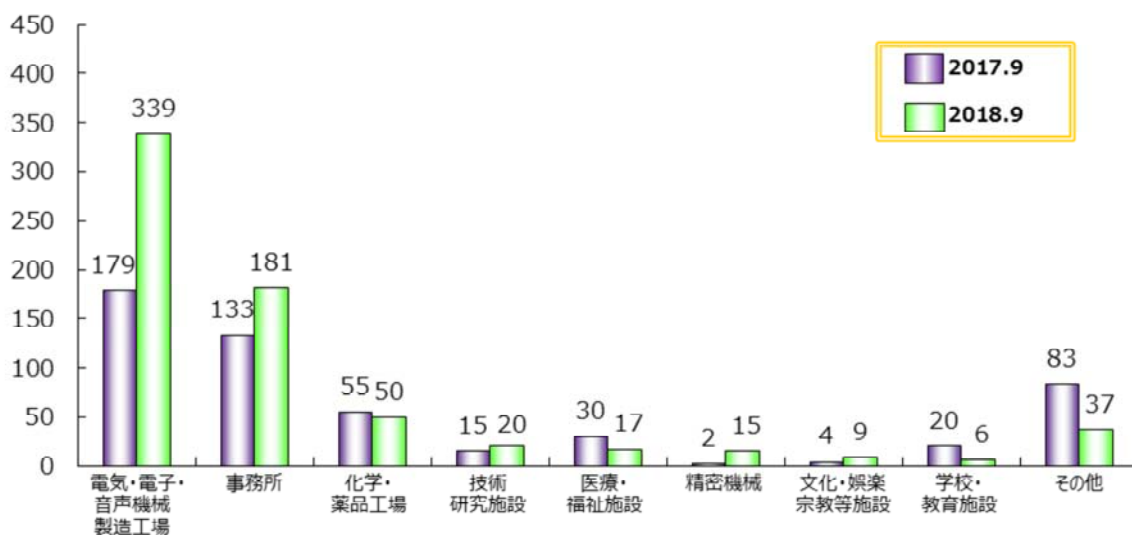
23ページからは、環境システム事業の業績についてご説明いたします。

左のグラフは受注高、右のグラフは完工高について事業分野別に推移を示しております。

そのうち、受注の海外比率は国内での受注拡大にともない、減少に転じました。

2. 市場種別受注状況(個別)

単位：億円

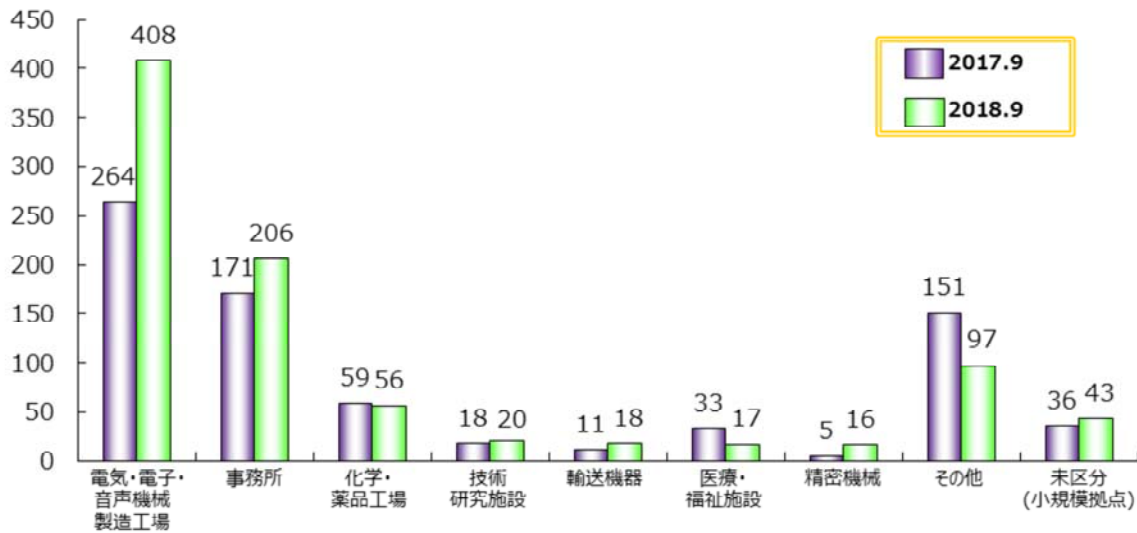


24ページは、「個別」の市場種別受注状況となります。

好調な「電気・電子」分野はほぼ倍増となったことに加え、「事務所」分野においても受注が拡大しました。

3. 市場種別受注状況(連結)

単位：億円

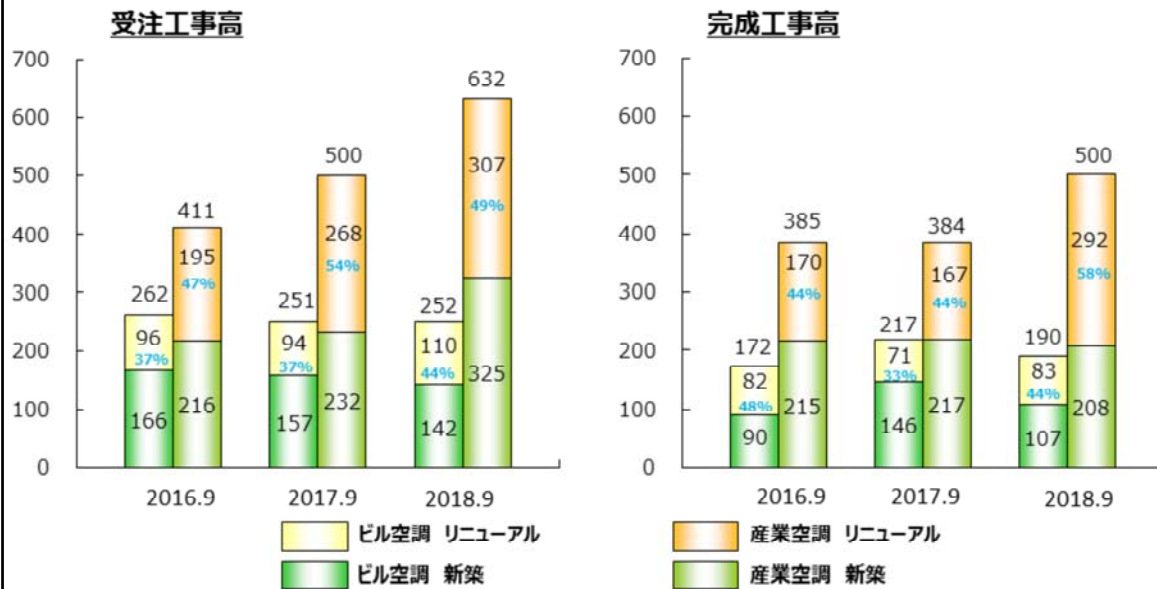


25ページは、環境システム事業の「連結」の市場種別受注状況となります。ご参照ください。

4. リニューアル工事の推移(連結)

単位：億円

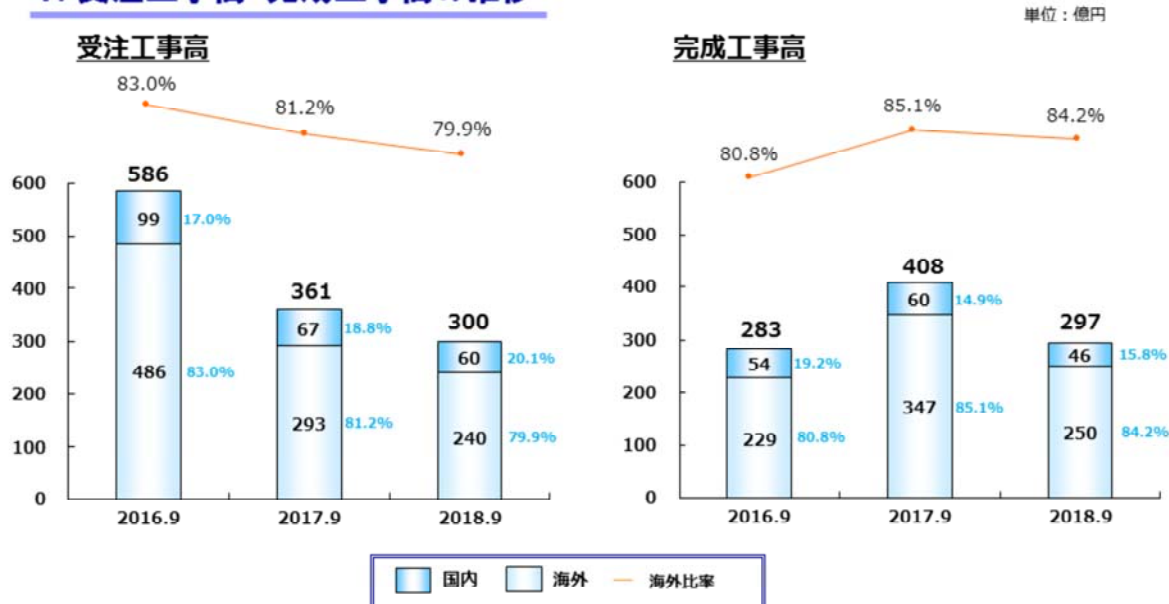
%：リニューアル比率



26ページはリニューアル工事の推移です。

産業空調のリニューアル工事が受注工事高、完成工事高ともに大きく増加しました。

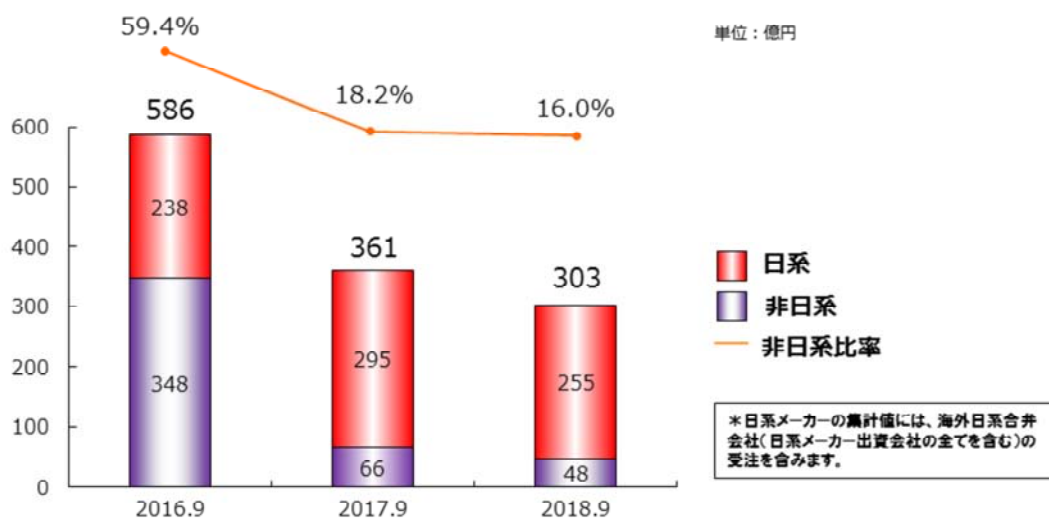
1. 受注工事高・完成工事高の推移



27ページからは塗装システム事業についての説明となります。

受注工事高は、前々期の上期は米国でGeico社の大型案件の受注がありました。

一方、完成工事高については、前期は繰り返しとなりますが、米国の自動車塗装の大型2案件が寄与しました。

2. 非日系メーカー受注工事高比率


28ページは非日系自動車メーカーからの受注工事高比率についてです。

前々期上期はGeico社が米国で非日系の大型案件を受注したことにより高い数値となっておりますが、前期は大きく反動減となりました。

当期は、中国・インド・パキスタンでの非日系メーカーの受注はあったものの、米国での受注減により、非日系の比率が減少しました。

4 主な受注工事・完成工事・繰越工事

1. 5億円以上の受注工事 全36件 (565億円)

5億円以上の件数 (工事・市場種別)				
受注工事高 合計 36件 (565億円)	国内 397億円	22件	事務所	5件
			医療・福祉施設	1件
			文化・娯楽施設	1件
			電気・電子	11件
			薬品	2件
			技術研究施設	1件
			精密機械	1件
	海外 167億円	14件	文化・娯楽施設	1件
			駅・空港施設	1件
			電気・電子	1件
			その他	3件
自動車			8件	

29ページから31ページは上期業績への計上金額が5億円以上となった、受注・売上・繰越案件についてまとめております。ご参照ください。

4 主な受注工事・完成工事・繰越工事
2. 5億円以上の完成工事 全29件 (333億円)

5億円以上の件数（工事・市場種別）				
完成工事高 合計 29件 (333億円)	国内 167億円	15件	事務所	3件
			医療・福祉施設	2件
			宿泊施設	1件
			電気・電子	8件
			食品・水産	1件
	海外 166億円	14件	商業施設	2件
			電気・電子	1件
			自動車	10件
			航空機	1件

4 主な受注工事・完成工事・繰越工事

3. 10億円以上の繰越工事 全41件 (884億円)

10億円以上の件数 (工事・市場種別)			繰越工事	内 2018年度 完成予定	
繰越工事高 合計 41件 (884億円)	国内 613億円	27件	事務所	11件	—
			医療・福祉施設	2件	—
			学校・教育施設	1件	—
			駅・空港施設	1件	—
			文化・娯楽	1件	—
			行政施設	1件	—
			電気・電子	8件	2件
			自動車	1件	—
			その他車両	1件	—
	海外 271億円	14件	商業施設	1件	1件
			薬品	1件	—
			自動車	12件	—

5 2019年3月期業績予想

事業部別予想値

単位：億円

	上期実績	下期予想	通期 新予想	通期 期初予想	差異
受注工事高	1,185	964	2,150	2,150	0
(うち国内)	(756)	(503)	(1,260)	(1,185)	(75)
(うち海外)	(428)	(461)	(890)	(965)	(-75)
環境システム事業	884	615	1,500	1,400	100
ビル空調	252	192	445	530	-85
産業空調	632	422	1,055	870	185
(うち国内)	(443)	(221)	(665)	(505)	(160)
(うち海外)	(188)	(201)	(390)	(365)	(25)
塗装システム事業	300	349	650	750	-100
(うち国内)	(60)	(89)	(150)	(150)	0
(うち海外)	(240)	(259)	(500)	(600)	(-100)

32ページからは、2019年3月期の通期業績予想についてご説明いたします。今回、上期業績を踏まえ、通期業績予想について修正させていただきました。

まず、受注工事高についてご説明いたしますと、全社では期初予想通り、2,150億円となる見込みです。

そのうち、環境システム事業は予想を100億円上回る見通しです。

国内産業空調については、下期に受注を見込んでいた大型案件が上期に前倒しで受注できたこともあり、上期実績443億円に対し下期予想は221億円となる見通しです。通期としては期初予想を160億円上回る、665億円となる見込みです。

なお、ビル空調につきましては、このような国内産業空調の受注状況と、施工キャパシティを鑑み、予想金額を減額することとしました。

一方、塗装システム事業は、予想を100億円下回る見通しです。

これは、今期受注を見込んでいた案件が来期に期ズレしたことなどによるものです。

5 2019年3月期業績予想

事業部別予想値

単位：億円

	上期実績	下期予想	通期 新予想	通期 期初予想	差異
完成工事高	988	1,211	2,200	2,200	0
(うち国内)	(550)	(588)	(1,139)	(1,131)	(8)
(うち海外)	(437)	(623)	(1,061)	(1,069)	(-8)
環境システム事業	691	728	1,420	1,400	20
ビル空調	190	242	433	470	-37
産業空調	500	486	987	930	57
(うち国内)	(313)	(277)	(591)	(546)	(45)
(うち海外)	(187)	(208)	(396)	(384)	12
塗装システム事業	297	482	780	800	-20
(うち国内)	(46)	(68)	(115)	(115)	0
(うち海外)	(250)	(414)	(665)	(685)	(-20)

33ページは完成工事高についてです。

全社では期初予想通り、2,200億円となる見通しです。

そのうち、環境システム事業は予想を20億円上回る見込みです。

国内産業空調は上期受注を大きく伸ばしましたが、工期の長い新築工事が多いため、今期完工への寄与は大きくない見通しです。

一方、塗装システム事業は、受注の期ズレなどの影響により、予想を20億円下回る見込みです。

5 2019年3月期業績予想
事業部別予想値

単位：億円

	上期実績	下期予想	通期 新予想	通期 期初予想	差異
営業利益	33	89	123	123	0
(同率)	3.4%	7.4%	5.6%	5.6%	0.0%
環境システム事業	62	61	124	105	19
(同率)	9.1%	8.4%	8.7%	7.5%	1.2%
塗装システム事業	-27	33	6	26	-20
(同率)	-9.3%	7.0%	0.8%	3.3%	-2.5%
経常利益	38	91	130	130	0
(同率)	3.9%	7.5%	5.9%	5.9%	0.0%
環境システム事業	65	62	128	107	21
(同率)	9.4%	8.6%	9.0%	7.6%	1.4%
塗装システム事業	-28	33	5	27	-22
(同率)	-9.5%	6.9%	0.6%	3.4%	-2.7%
親会社株主に帰属する 当期純利益	9	52	62	75	-13
(同率)	0.9%	4.4%	2.8%	3.4%	-0.6%

34ページは利益についてです。

経常利益についてご説明しますと、環境システム事業は、上期は国内産業空調の完成工事高が好調に推移したことなどにより、期初予想を大きく上回り、65億円となりました。下期は完成工事高が上期に前倒して計上されたことにより期初下期予想を下回るため、経常利益も予想を下回るものの、通期では、期初予想を21億円上回る、128億円となる見通しです。

塗装システム事業は、上期はGeico社の米国案件の採算悪化の影響を受けましたが、下期についてはGeico社を含め期初に見込んでいなかった採算性の高い案件の下期取り込みなどにより、期初下期予想を上回る利益の達成を目指し取り組んでおります。なお、通期では5億円となる見通しです。

全社としましては、期初予想の130億円の達成に向けて、最後まであきらめず取り組んでまいります。

一方、純利益につきましては、Geico社に係わる特別損失計上により、期初予想を大きく下回る見込みです。

5 2019年3月期業績予想

事業部別予想値

単位：億円

	2018.3									2019.3								
	環境システム			塗装システム			全社			環境システム			塗装システム			全社		
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	上期	下期	通期	上期	下期(E)	通期(E)	上期	下期(E)	通期(E)	上期	下期(E)	通期(E)
受注工事高	752	722	1,475	361	361	723	1,114	1,084	2,198	884	615	1,500	300	349	650	1,185	964	2,150
完成工事高	602	796	1,399	408	511	919	1,010	1,308	2,318	691	728	1,420	297	482	780	988	1,211	2,200
営業利益	46	69	115	-13	23	9	31	89	121	62	61	124	-27	33	6	33	89	123
経常利益	48	70	118	-14	26	11	35	95	130	65	62	128	-28	33	5	38	91	130
親会社株主に帰属する当期純利益	-	-	-	-	-	-	22	49	72	-	-	-	-	-	-	9	52	62

① 2018年3月期上期決算為替レート：1USD=112.75円、1EUR=122.26円、1タイバツ=3.25円

② 2019年3月期上期決算為替レート：1USD=109.17円、1EUR=131.27円、1タイバツ=3.42円

③ 2019年3月期想定為替レート：1USD=105円、1EUR=130円、1タイバツ=3.33円

①と②の為替差による影響 完成工事高：+7.3億円、経常利益：△2.3億円

②と③の為替差による影響 完成工事高：+9.3億円、経常利益：+0.1億円

35ページは今期業績予想に前期実績を並記した資料となりますので
ご参照ください。

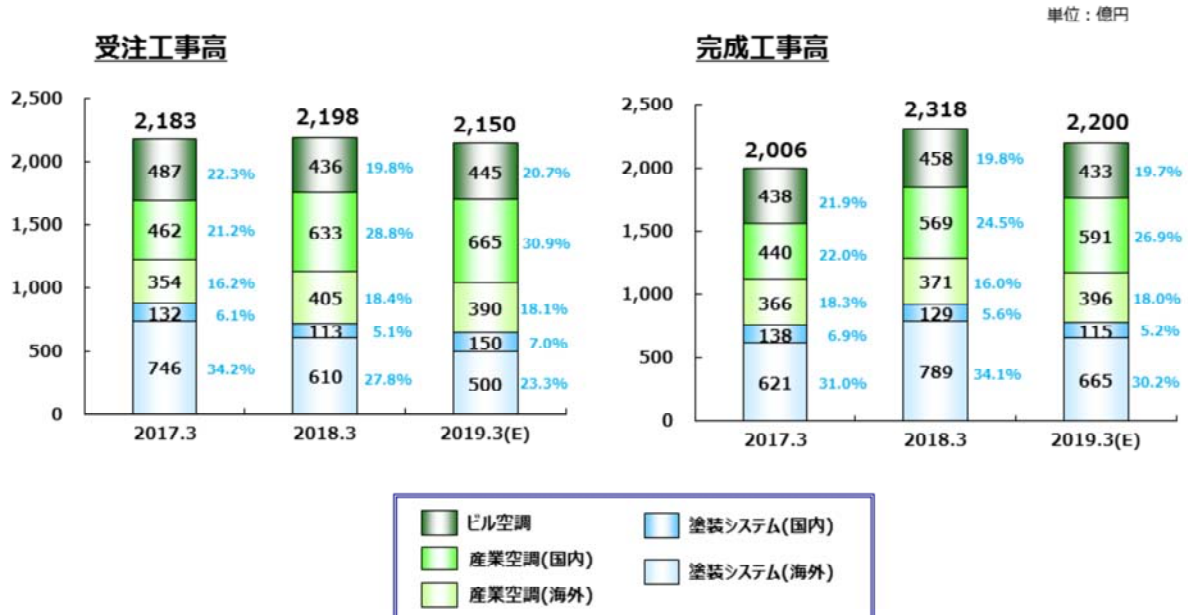
以上今期業績予想の修正についてご説明させていただきました。

なお、想定為替レートにつきましては、スライド下部に記載しております。

また、為替差による影響についても記載しておりますので、合わせてご確認
ください。

5 2019年3月期業績予想

事業別予想値

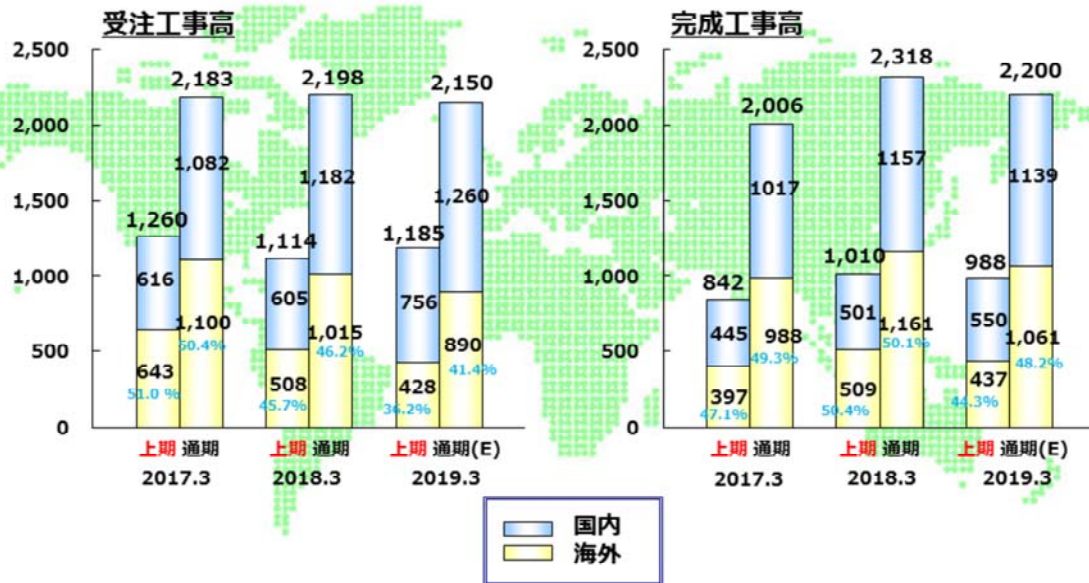


36ページ～39ページは全社および各事業における受注工事高、完成工事高の業績予想をお示しておりますのでご参照いただければと思います。

5 2019年3月期業績予想

全社（国内／海外別）

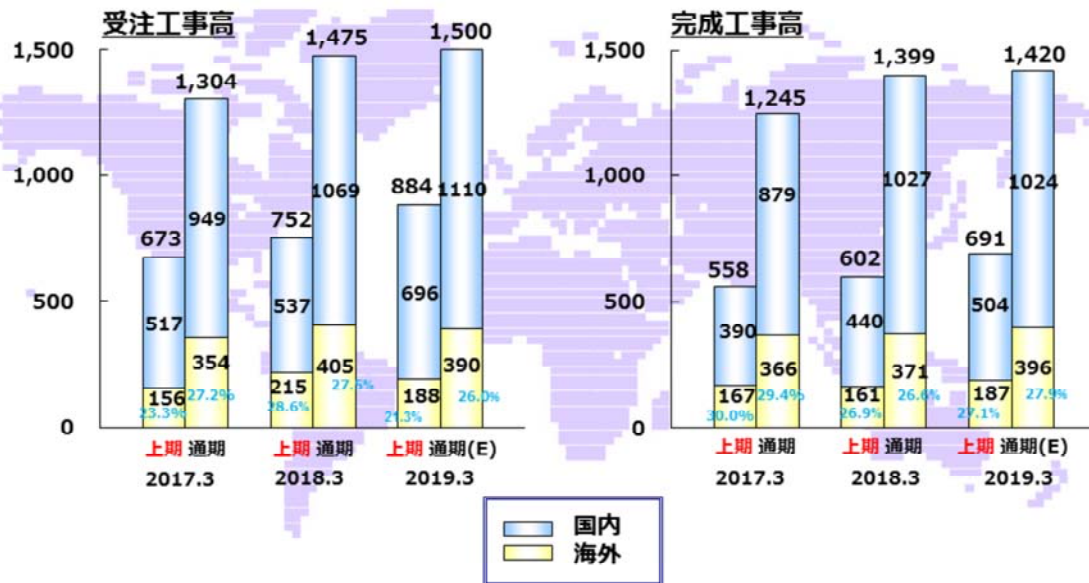
(単位:億円)
(%:海外比率)



5 2019年3月期業績予想

環境システム事業 (国内/海外別)

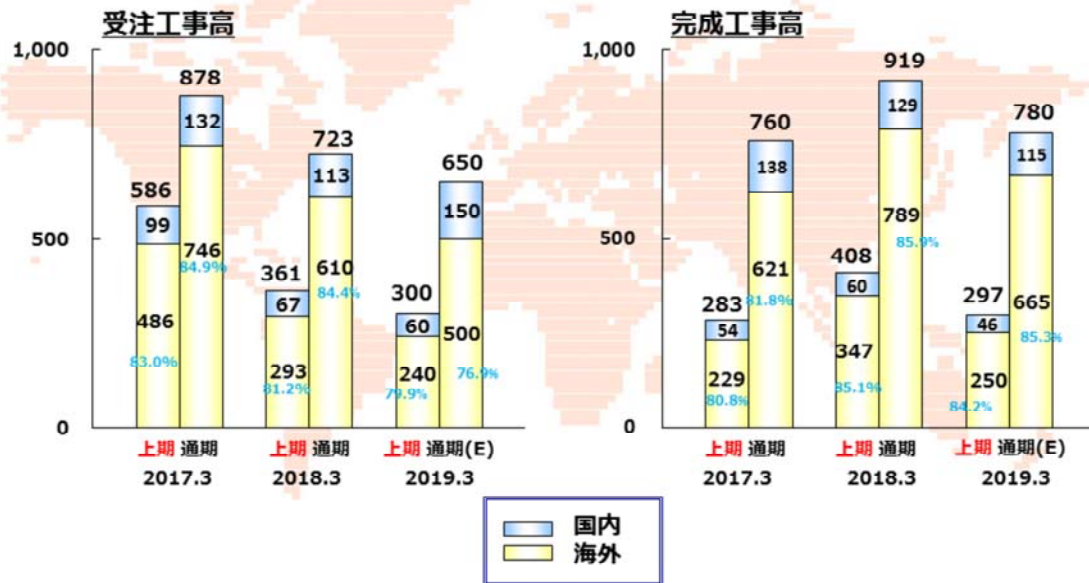
(単位:億円)
(%:海外比率)



5 2019年3月期業績予想

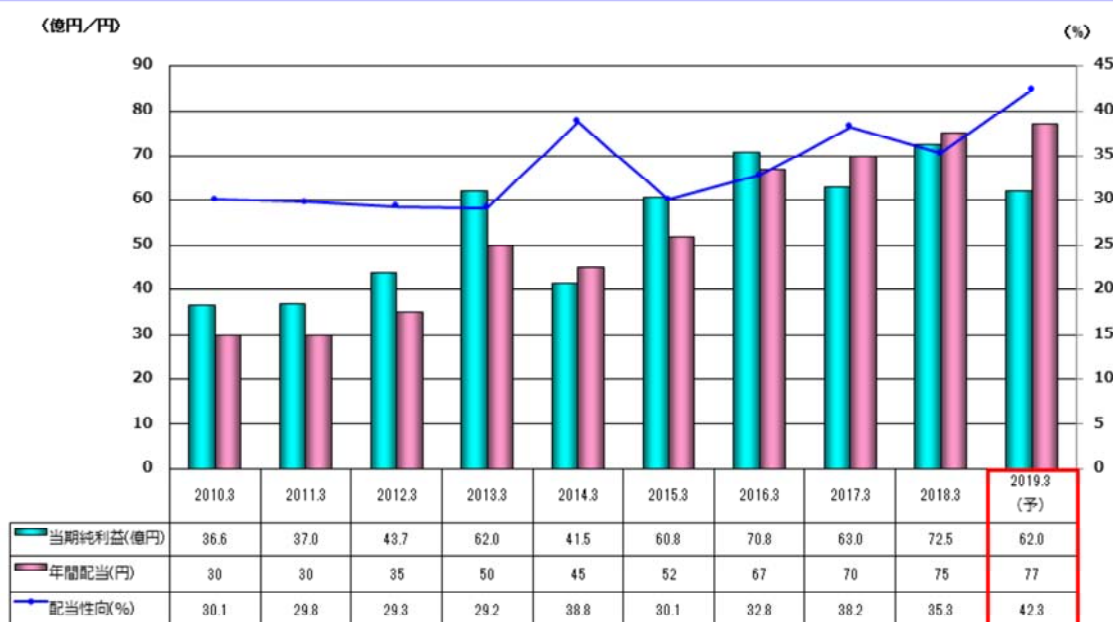
塗装システム事業（国内／海外別）

(単位:億円)
(%:海外比率)



6 株主還元

当期純利益と配当の推移



・ 期初公表の配当予想金額を変更せず、77円/株での実施を予定。

40ページは、配当についてです。

配当につきましては、連結配当性向35%を目標とし、かつ安定的な配当を実施することを基本方針としておりますが、今期の年間配当は、期初公表の配当予想金額から変更せず、1株につき77円で実施する予定です。これにより配当性向につきましては、約42%となる見通しです。

6 株主還元

自己株式の取得・消却

取得実績				消却実績			
実施年月	株数 (千株)	単価 (円)	金額 (百万円)	実施年月	株数 (千株)	単価 (円)	金額 (百万円)
2005年12月	40	1,933	77	2008年 8月	1,200	1,593	1,912
2006年 2月	597	1,780	1,062	2018年 2月	1,700	2,443	4,154
2006年7,8月	500	1,401	700				
2011年 8月	300	1,576	472				
2012年11月	600	1,614	968				
2013年12月	800	2,170	1,736	<u>処分実績</u> (ESOPにて)			
2015年 5月	680	3,245	2,206	実施年月	株数 (千株)	単価 (円)	金額 (百万円)
2016年11月	356	2,805	999	2013年 2月	180	1,860	334
2017年11,12月	136	3,654	499				

41ページは、自社株式の取得・消却実績についてご説明いたします。

現中計の期間につきましては、前々期は10億円、前期に5億円の自社株式の取得を実施しましたが、今期につきましては、現時点では実施を予定しておりません。

背景としましては、神奈川県座間市におけるテクニカルセンターの設立や、新基幹システムの構築など経営基盤・事業基盤の強化に向けた投資を積極的に行ったことや、また、配当による株主の皆様への直接的な還元を重視したいという考えなどを、総合的に判断したものであります。

以上を持ちまして、決算の説明とさせていただきます。

ご清聴いただき、ありがとうございました。

将来の見通しに関するご注意事項

本資料にて開示されているデータや将来予測は、本資料の発表日現在の判断や入手可能な情報に基づくもので、種々の要因により変化することがあり、これらの目標や予想の達成、および将来の業績を保証するものではありません。またこれらの情報が、今後予告なしに変更されることがあります。

従いまして、本情報および資料のご利用は、他の方法により入手された情報とも照合・確認し、ご利用者の判断によって行っていただきますようお願いいたします。

本資料ご利用の結果、生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。

本資料に関するお問合せ先

株式会社大気社 管理本部 企画・広報課

TEL : 03-5338-5052 FAX : 03-5338-5195